



猛暑による夏枯れ等で減収、植生悪化事例が多発！

昨今の温暖化で夏枯れや虫害等により、牧草の再生が低下するとともに、雑草の侵入により植生が悪化し、収量低下となる事例が多発しています。

牧草収量を回復させるには、草地更新を実施して雑草を駆逐するとともに新たに牧草を定着させることが必要です。→**詳細は裏面を参照**

計画的な資材確保と作業の実施で、夏枯れによる生産性の低下に対応しましょう。



夏枯れと虫害で部分的に3番草が再生不良となった草地
(令和5年10月 八幡平市)



夏枯れ翌年にナズナ等の雑草が繁茂し植生悪化した草地
(令和6年5月 葛巻町)

《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

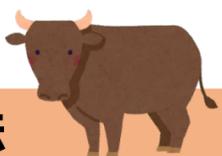
マニュアルのダウンロード
はこちら→
p19～24をご覧ください



○ 昼間分娩への誘導について

夜中の分娩は人の目が行き届きにくく、難産や子牛の死亡事故の発生リスクが高まります。

そこで、**昼間（一般的に人が活動している6時～21時頃）に分娩するよう誘導**する方法として、「**夜間給餌法**」があります。確実に分娩に立ち会い、必要に応じて分娩前後の介助ができるよう実践してみましょう。



夜間給餌法

- 毎夕(15～17時頃)に1日分の飼料を給与
※分娩予定日の2週間～10日以上前から開始
※昼間に盗食することがないように注意
- 翌朝、残飼を全て撤去
- 水は不断給与

下の表は、夜間給餌を実践した県内の農場における、時間帯別分娩頭数です。

(調査期間：R5.10.1～R6.5.31)

この農場では、**毎日15～16時頃に給餌したところ、約75%の牛が昼間（6時～21時）の分娩**となりました。

表 夜間給餌を実践した県内の農場での時間帯別分娩頭数

分娩時刻	2～6時	6～10時	10～14時	14～18時	18～21時	21～翌2時	計
頭数	5	6	5	11	14	8	49

昼間の分娩が約75%(36頭/49頭中)

※確実に分娩に立会するための取組としては、夜間給餌法の他にも看視の強化やICT機器の併用などもあります。

草地更新時は、除草剤の播種同日処理でしつこい雑草を駆逐し牧草を確実に定着させましょう！

①収量低下②雑草繁茂③土壌が固くなった場合やルートマット(生きている牧草と死んでいる牧草の根の層)が厚い(5cm以上)場合は、**完全更新がおすすめ**です。



早い時期の播種や播種後の気温が高く推移した時など、越冬前に牧草草丈が30cm以上に伸び過ぎた場合は、地表面が多湿となり雪腐れを助長するため、**秋冬期に掃除刈**(集草して圃場外に持ち出す)する必要があります。

